



関学ASの効果的な活用について 2008年度入学（会計専門職専攻） 矢敷 和貴

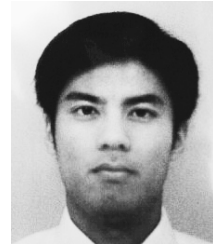
公認会計士資格取得に焦点を当てると、会計専門職大学院（AS）のメリットが見えづらいと言われることがあります。そこで、学生側もASを積極的に活用していく姿勢が重要と感じます。そのような活用を行うための参考として、私を感じた関学ASの特徴を述べます。

第一に、関学ASの科目の中には、知識の体系化に適している科目があるということです。例えば、「経営財務論」や「法人税法」は、受験学校では、知識の詰め込みになりがちで、知識が自分の頭の中になかなか定着しないことがあります。そこで、関学ASにおいて、そのような科目の幹の部分を中心に、なぜそうなるのかというロジックと全体像をしっかり把握してから、細部をインプットすると、記憶のもちがよくなり、また少し問われ方を変えられても、対応することが可能となります。

第二に、履修登録の後に、一定期間、登録した科目の変更が可能であることです。これにより、実際に受講してみて、授業内容が今の自分のレベルに適切か判断できます。

第三に、関学ASには様々な社会人のバックグラウンドを持った方々がいらっしやるので刺激になり、また、優秀な受験仲間を見つける機会があると言えます。短期間で試験に合格するには、できる人のやり方をそっくり真似ることが大事です。

関学ASで学習される方々には、以上のような特徴を踏まえ、是非、関学ASを効果的に活用されて、各自の目的を達成していただきたいと思います。



自分を見据えて 2009年度入学（会計専門職専攻） 伴 明子

私は、大学時代にゼミナールや会計分野の授業を通して、日本の会計基準と国際会計基準の違いや、国際会計基準の導入について興味を持ち会計学を深く学びたいと思いました。また、その中で公認会計士を目指すという新たな目標を立て、会計専門職大学院への進学を決めました。

しかしながら、大学院の授業を進めていく中で壁にぶつかることもあり、自分の選んだ道に不安を感じることもあります。公認会計士を目指すという道がいかに厳しいことなのかを痛感しています。けれど、そのなかで同じ目標に向けて共に学び、支えあえる多くの仲間に出会ったことは、本当に良かったと思っています。ここで出逢った仲間は一生の財産であり、かけがいのないものです。大学院のなかでこういった交友関係が広がることにより、自分の持っていた視野よりさらに広い視野で物事を見て、聴き、さらに判断することができるようになったと感じています。また、視野が広がることにより今まで見えてこなかったものや、今、自分が何をしなければいけないのか、見えてくるものが沢山あります。

少しずつではありますが、自分が成長していることを噛みしめ、これ以上に成長し続けるためにも自分への限度を決めず、多くのことを学びとりそれが結果に繋がるように自己研鑽に努めていきたいと思えます。

